

外国語教育研究センター

外国語教育研究センターは、言語の分野における調査、研究を行う大学附置研究施設であるとともに、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語、朝鮮語、アラビア語、そして留学生向け日本語、計 10 言語の外国語科目の授業を開講しています。

国際化が進むなかで、外国語の重要性はますます高まっています。外国語教育研究センターは、質の高い授業を提供し、また外国語に興味を持ち、自発的に学ぼうという意欲ある学生の皆さんを応援しています。

■ 英語

英語が世界においてきわめて重要な言語であることは言うまでもありません。本学では、自分のレベルを知る目安として、法学部・経済学部・文学部・理学部の学生に対して、入学時および 1・2 年終了時に TOEIC®L&R の全学共通試験を実施しています。

また、法学部・文学部・理学部の 1 年生および政治学科・文学部・理学部の 2 年生を対象に、習熟度別クラス編成と少人数クラスを導入しています。

■ 外国語自習室（中央教育研究棟 6F）

開室時間：月曜日～金曜日 10:00～16:30

※ パソコン、CD、DVD、自習用教材、多読用英語書籍等を用意しています。

■ 英語以外の外国語

英語以外の外国語はゼロからスタートする学生が多いと思いますが、それゆえの学習の喜びがあります。街で見かけた言葉の意味がわかったり、その言語の話されている国々のニュースに敏感になったりと、思っていた以上に自分の世界が広がることでしょう。英語以外の言葉を学ぶことによって、英語への一極集中的な状況に対する客観的な視点も持て、また英語、ひいては母語である日本語の理解も深まります。

卒業に必要な単位を取得した後も、その語学の学習をさらに深めたり、新たな外国語に挑戦する学生もよく見受けられます。

東洋文化研究所

東洋文化研究所は 1952 年、安倍能成学習院長（当時）の「新たな理念と、広い視野をもって、改めて東洋に学ぶことは、日本人自身の為にも世界人類の為にも重要な仕事である」という主旨のもとで発足し、朝鮮・中国を中心とした東アジア地域に関する研究拠点として 70 年を超える歴史を有し、関連する資料を数多く所蔵しています。毎年、レポート・卒業論文等の作成のため、多くの学生が集まります。

■ プロジェクト研究

校内の先生方を研究員とし、また学外の専門家にも客員研究員としてご参加いただき、毎年 10 件前後のプロジェクト研究を行っています。東アジアの歴史・思想・政治・法律・教育・言語などを対象とする一般研究プロジェクトのほか、学習院が所蔵している漢籍や朝鮮関連資料を調査するアーカイブズプロジェクト、若手研究者の研究支援のための共創研究プロジェクトも活動中です。

2024 年度実施予定プロジェクト

● 一般研究プロジェクト

「東アジアの河川地形名と指示代名詞（現場指示）の言語地理学的研究」
「新発見史料を踏まえた漢代石刻における人名・地名情報の研究」
「戦時期の学習院と東アジア」
「インド及びインドネシア等のアジア諸国における州別 SDGs 達成度の時系列変化分析及び諸外国間での比較」ほか

● アーカイブズプロジェクト

「東洋文化研究所所蔵の朝鮮近代資料の調査・整理」
「学習院大学所蔵漢籍の調査」ほか

● 「東アジア学」共創研究プロジェクト

■ 刊行物

年報『東洋文化研究』では、プロジェクトの研究成果のほか、学内外から広く論説の投稿を受け付けており、高水準・最新の東アジア研究の成果が掲載されています。また、単冊の研究報告として、『調査研究報告』も計 72 冊刊行されています。研究成果を広く社会に還元するため、「学

習院大学東洋文化研究叢書」のシリーズを刊行しており、最近では、『秦漢簡牘姓氏史料集成』を刊行しました。このほか、朝鮮史の基本資料である『李朝実録』『三国史記』などの復刻も行っています。

■ 公開講座

一般向けのシリーズ講演「東洋文化講座」を 30 年より毎年開催し、既に 100 回を越えました。また、それぞれの研究プロジェクトでも、海外の研究者や学内外の専門家による公開講座やワークショップなどが開かれています。基本的に参加無料、事前申込不要です。

■ 所蔵資料

東アジア関係の書籍・資料を中心に約 4 万冊を収蔵しています。広開土王碑拓本、朝鮮総督府関連資料である友邦文庫など、一次資料も収蔵しています。東アジア研究に必要な辞書・事典類や、四庫全書 CD-ROM、データベースなど、レファレンスも充実しており、学生の皆さんは、どなたでもこれらの資料を利用できます。

計算機センター

計算機センターは、情報処理に関する研究を行う大学附属研究施設であるとともに、情報に関する全学共通科目を開講しています。

■ 開講科目

「情報リテラシー科目」ではオフィスツールの使い方、情報倫理・情報セキュリティ等、基礎的なスキル・知識を学びます。「情報教養科目」では、情報技術と情報社会の理解を目的としてプログラミングやデータ分析等について学びます。「データサイエンス専門科目」では、データサイエンティストの素養として必要となる統計分析や人工知能技術等の基礎を学びます。2022年度から大幅に開講科目がかわり、2023年からデータサイエンス副専攻が始まりました。また、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の認定を受けています。詳細は履修要覧をご覧ください。

情報リテラシー科目	
情報リテラシー	情報技術基礎
情報教養科目	
ネットワークと通信	統計解析ツールによるデータ分析
表計算ツールによるデータ分析	プログラミング中級
プログラミング初級	計算機科学とプログラミング中級
計算機科学とプログラミング初級	コンピューター科学概論
情報理論概論	人工知能とビッグデータ
情報社会（人工知能の現場）	暗号技術
コンピューターと情報技術	人工知能の現場
情報セキュリティと情報倫理	情報技術（情報セキュリティの現場）
データサイエンス専門科目	
データサイエンスのための情報理論	プログラミングで学ぶ情報理論
データサイエンスのための数学基礎Ⅰ	プログラミングで学ぶアルゴリズム
基礎のアルゴリズム	プログラミングで学ぶ機械学習
基礎の機械学習	プログラミングで学ぶニューラルネット
基礎のニューラルネット	コンピューターグラフィックス
画像情報	※ 2024年度は開講しません

■ アカウント情報の不正利用について

利用権に基づいてサービスを利用する際には、アカウント情報（学籍番号・パスワード）が必要ですが、本人以外のアカウント情報を使用することは認めていません。**アカウント情報の貸し借りは厳禁**です。不正利用を発見した場合は利用停止などの措置をとります。

■ 無線 LAN の利用

校内の無線 LAN を利用するためには、前項の利用権が必要です。無線 LAN システムの主な設置場所は下記の通りです。

● 学生が利用できる主な場所

東 1 号館、東 2 号館（1,2,5F）、西 2 号館、西 5 号館（B1 - 4F）、南 1 号館、南 2 号館、南 4 号館、南 6 号館、南 7 号館、北 1 号館、北 2 号館、中央教育研究棟、輔仁会館（1,2F）、百周年記念会館、富士見会館（2 - 4F）

● 利用するための情報

個人の端末を接続するには、設定が必要です。

詳しくは、計算機センターの Web サイト <https://www-cc.gakushuin.ac.jp> を参照してください。

■ 授業用パソコン・実習用パソコン

計算機センターでは、授業時に利用するパソコン、および、実習用にオープン利用できるパソコンを用意しています（68 ページ参照）。これらのパソコンを含め、無線 LAN、Web メール等、計算機センターが提供する情報サービスを利用するためには、利用権を取得する必要があります（次項の「計算機センター提供サービスの継続利用権」を参照）。

計算機センター 2 階にある実習室には開室時間中インストラクターが常駐していますので、パソコンのトラブルや使用方法について質問したりすることが出来ます。

■ 計算機センター提供サービスの継続利用権

入学者には入学年の 1 学期末まで有効な利用権を発行します。この利用権によって計算機センターが提供する情報サービスを時限的に利用することが出来ます。

入学年の 2 学期以降も上記サービスを継続利用するためには、継続利用権が必要です。

継続利用権は、情報倫理に関する認定試験（情報倫理 e ラーニング、<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/cc/ninteisiken.html>）の新規合格者に対して、計算機センターが発行します。継続利用権は卒業まで有効です。**継続利用権を取得しないと、校内のパソコンや無線 LAN、Web メールを利用できなくなります**ので、注意してください。